

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立岐南工業高等学校

1 学校教育目標	<p>(1) 校訓「創意実践」のもと、知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人を育成します。</p> <p>(2) 全ての教育活動を通して「自立力」「共生力」「自己実現力」をバランス良く身に付けた人づくりを目指します。</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (G P)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動し責任を持ち、基礎・基本を身に付けた生徒 自己の役割を認識し、周囲と協力し、工業の発展のために積極的に自己の能力を生かそうとする生徒 規範意識・倫理観・創造力・実践力等、職業人として必要な資質を身に付け、工業技術を活用し社会に貢献する生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (C P)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業界との連携や課題研究等を通し主体的に学び続ける力、課題解決能力、職業人として必要な資質や能力を育成 ものづくりや資格取得、各種コンテストへの参加から、知識・技能を習得、社会人基礎力を身に付けた人材を育成 学校行事や部活動及び生徒会活動から心身の健全な発育、仲間意識、責任と規律を重んずる態度を育成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (A P)</p> <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を持ち、専門的な知識と高度な技術の修得に誠実に取り組み、地域産業の発展を支える人材になるという意欲のある生徒 多様な人々とのつながりを大切にし、他者と協働し目標に向け努力する生徒 高校生活に明確な目標を持ち、学習だけでなく資格取得や部活動にも意欲的に取り組むことができる生徒
3 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力に不安を感じる生徒に対するフォローもできている。 ○体験的な学習活動を通し課題解決力の向上と主体的、協働的に取り組む姿勢を育成している。 ▲オンライン授業等を実施することができた一方で、機器に苦手な教員はICT機器を利用する頻度が少ない。 ○遅刻者数、交通事故件数ともに減少傾向にある。規範意識の向上に努めた。 ○頭髮については、以下のように多くの方の意見を取り入れ、本校の指導の在り方について方針を定めることができた。 ▲挨拶運動・指導を実施したが、満足のいくものではなかった。 ▲教育相談において、時間的な制限によりカウンセリングのみとなり、見立て、助言、援助と踏み込んだ支援が得られなかった。 ○就職希望者の一般企業の内定率は、今年度も100%を達成することができた。 ○インターンシップ、企業見学、各種講習会等を実施し、進路支援の継続的な取組ができた。 ▲四年制大学進学希望生徒に、基礎力テスト、各種検査の結果と合わせて個に応じた適切な指導を行いたい。 		
4 学校の抱える課題	<ol style="list-style-type: none"> (1) 交通事故件数の減少 (2) 欠席・遅刻に対する意識の低下と規範意識を高め、規律正しい高校生活の定着 (3) 教育相談の充実 (4) より一層、生徒一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通すことができ、振り返ることもできる働きかけを研究 (5) 工業科職員だけでなく、普通科の教員も就職指導ができるよう、キャリア教育に関する職員研修の充実 (6) 進学者に対する学習指導など本校の進学指導の在り方を研究 (7) 教員のICTを活用した授業指導力の向上 (8) 外部の教育力の活用と本校の強みと弱みを把握し教育活動を改善 		
5 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇確かな学力の定着・向上を図ります。 ◇ものづくりを通して人づくりを推進します。 ◇部活動を通じた人づくりを推進します。 		

年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
1 確かな学力の 定着・向上を 図ります。	①理数系科目の7限目授業を実施します。	①生徒による授業評価の結果	①アンケートの結果から80%以上で良好との回答	A	○朝学習や学び直し学習会における個別指導を実施することにより、基礎学力の改善を図ることができた。 ▲課題を解決するために必要な思考力や判断力の育成が必要で、生徒に身に付けさせたい力を各教科において明確にし、授業改善が必要。 ○主体的、協働的に取り組む姿勢を育成する教育に外部から高い評価を得た。 ○病気等で登校できない生徒に対して、授業動画の配信を実施し、授業補償や学び直しに役立てることができた。 ▲運用面において機器のトラブルや自宅学習の対応、ICT機器の活用方法に課題が残る。	○A B C D
	②学びなおし学習の個別指導により、基礎学力の定着を行います。	②生徒・保護者のアンケート結果	②アンケートの結果から80%以上で良好との回答	A		
	③ICTを活用した授業の実践・研究をします。 ④公開授業や職員研修会などにより、職員同士が学び合い、指導力の向上を図ります。 ⑤全職員の共通理解のもと、規律ある授業で学力向上を推進します。 ⑥海外プロジェクト等外部活力を活用したキャリア教育を充実させ、進路希望に応じた進路指導を行います。	③基礎力テストの結果と分析	③家庭学習時間が年々低下している傾向である。	B		
		④研究授業・公開授業の教員間評価や感想	④研究授業・公開授業を行い多くの先生が授業参観することで、自分自身の授業を振り返ることができた。他教科の授業を参観することで、他教科がどのように指導をしているか知ることができた。日頃指導している生徒が、他教科ではどのように学習しているかが分かった。	A		
		⑤研究授業・公開授業・職員研修の実施件数	⑤研究授業・公開授業・職員研修の実施件数 7回	A		
2 ものづくりを 通した人づくり を推進します。	①技能検定等の取得を目指します。	①技能検定等の合格者数の比較	①技能検定の受験者も昨年に比べ1.3倍受験している 表彰者、資格・検定取得者については、本校の顕彰制度規定による3年生表彰者が全体の金賞38.8%、銀賞27.4%、銅賞20.5%の割合であり、前年度より増加している。	A	○生徒が、多くの資格・試験にチャレンジし取得しているので今後も継続して指導をする。 ○ものづくりコンテストでは、優秀な成績を収めることができ継続した指導をしていきたい。 ○各種コンテストに積極的に参加し、優秀な成績を収めることができ、その成果が大学進学へ嫁無かった。 ▲コンテスト参加が一部科となっているので、全科でコンテスト参加を推進	
	②ものづくりコンテストなど各学科の特徴を生かした競技会に積極的に参加します。	②各科の各種コンテスト結果	② ・パテントコンテスト（主催：文科省、特許庁等）日本弁理士会会長賞＋優秀賞（2作品） ・第30回衛星設計コンテスト 宇宙科学振興会賞（主催：日本機械学会等） ・POPコンテスト2022（主催：名古屋学院大）最優秀賞、優秀賞 ・缶サット甲子園 岐阜地方大会（主催：岐阜大）第2位 ・ロボットアイデア甲子園	A		

			<ul style="list-style-type: none"> 優秀賞+アックアイ賞（主催：日本ポット工業会等） 全国高等学校デザイン選手権大会2022入選（主催：東北芸術工科大） 美濃和紙あかりアート展 入選（主催：美濃市観光協会等） 岐阜県工業高校生ものづくりコンテスト「電気工事部門」優秀賞2名、「木工加工部門」、「測量部門」最優秀賞。 ものづくりコンテスト(岐阜県教育委員会) 電気工事部門 2位入賞3位入賞、測量部門 最優秀賞(第1位) 東海大会出場決定 自動車整備部門 準優勝 若年者ものづくり競技大会出場 		<p>する必要がある。</p> <p>▲生徒のものづくり技術支援体制の継続とさらなる向上が課題である。</p>
③産学官の連携や地域イベントでのものづくり体験を通して、コミュニケーション能力を培い、地域へ貢献できる人材の育成をします。	③生徒・保護者のアンケート結果	③	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、事業所の訪問やインターンシップ、オープンキャンパスなどに参加することが困難であったにもかかわらず、工夫され子どもたちが進路決定に困らないように指導していただき感謝しています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○何をしている企業か、あらかじめ調べることにより主体的な取り組みを育成し、インターンシップの目的を理解させた。 ○建設の仕事への誇りや社会を良くしようとする使命感を強く感じました。本校土木科もそのような志高き土木技術者を輩出できるようにしたい。 ○コロナの影響が残る中、以前の生活に戻りつつあるものの各種行事の実施に当たっては慎重に検討をして取り組んだ。 ○今年も業界をはじめ各企業の理解とご尽力により、企業見学や合同体験フェア、建設現場を見学・体験することができ、学んできた学習内容の確認
④インターンシップを実施し勤労観・職業観の育成をします。	④インターンシップの評価や感想	④	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中を2期に分け、学校紹介90社(207人)、家庭紹介4社(9人)の事業所の協力を得て、対象は2年生全員(218人)(期間Ⅰ：7/27-7/29、期間Ⅱ：8/17-8/19その他)。 インターンシップが本校キャリア教育、進路決定の重要な柱であり、今後も充実したインターンシップを実施したい。 意欲的に作業に取り組み、社員とも上手にコミュニケーションが取れて、社会に出ても早く馴染めると思う。多くの技術を習得しよう、質問してメモを取る姿勢に向上心が伺えた。 	A	

		<p>⑤産学官の連携や地域イベント体験参加者アンケート結果</p>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築工業会現場見学会 羽島高校の校舎改築、建築工事 岐阜農林高校部室改築、建築工事 ・若年者地域連携事業（中小企業見学会）西濃建設(株)・(株)フォレストノート ・資格セミナー ・ハウジングギャラリー見学 ・就職セミナー ・専門工事業体験フェア ・厚生労働省「ものづくりマイスター制度」の活用 技能検定大工技能3級の実技指導 ・知財力開発支援事業 岐阜プラスチック工業株式会社、中部電力パワーグリッド株式会社 ・電気工事協同組合との交流事業 ・建設系企業との交流サロン ・松野組現場見学会 ・ぎふサイエンスフェスティバル ・中小企業職場見学会 西濃建設職場見学会 ・根尾川橋IHI・横河JV出前授業 ・(株)ROBOZ ドローン出前授業 ・中小企業職場見学会 株式会社エイエムディ自動機、株式会社Hozumi加藤製作所 ・浜岡原子力発電所見学会 ・キャリア教育支援授業 中部管区警察局情報通信部・名古屋工学院専門 ・産学金官連携人材育成事業 株式会社ナベヤ、株式会社J-MAX ・ロボット講習会（中部大学 教授） 	A	<p>をさせることができた。これらも体験を通し、担い手を育成できるよう取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度と違い、多くの行事やイベントは実施することができた。 ○外部講師の方々に来ていただき、情報社会を支える仕事、通信情報社会と私たちの暮らし、資格を取得することの意義について講演いただいた。 ○AIの研究概要や、実際にロボットに触れプログラミングすることによって生徒のものづくりに対する興味や関心が今まで以上に高まる有意義な体験ができた。どの様に大学教授になったのかの話も大変興味深く参考になった。
<p>3部活動を通して た人づくりを推進します。</p>	<p>①元気な挨拶、高校生らしい身だしなみや遅刻をしないなど、マナーや時間を守る意識を高め、規律正しい生活習慣を確立します。</p>	<p>①部活動やボランティア活動参加人数や回数</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校の78.8%の生徒が部活動に加入し活動をしている。 ・自転車・レスリング・卓球・バレーボール・陸上競技など多く運動部が東海・全国大会に出場 ・文科系部においても、コンテストなどで優秀な成果を開けた。 ・MSリーダーに参加する生徒が多く、挨拶運動・交通安全運動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動が全員加入でないなか、多くの生徒が部活動に励んでいる。 ▲生徒減少期に向けて、部活動数の精選を今後考える時期となっている。 ○生徒は機会を提供すると積極的に行動してくれる。

			<p>などに積極的に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜科学塾「テクノスクール」など、外部団体イベントの運慶に協力をした。 			
	②他者への思いやりや、助け合いながら切磋琢磨していく向上心を育成します。	②生徒・保護者のアンケート結果	②挨拶運動はとても良い取組であると思います。社会に出ても朝の挨拶で始まり、帰りの挨拶で終わると言う行為が日常的にできる社会が適切であると思います。今後もこの活動は継続していただきたい。	A		

II 学校関係者評価

年月日：令和5年2月9日

- ・基礎学力をつけるための朝学習は効果的だと思います。今後も継続していただき基礎学力の定着をお願いしたい。
- ・情報発信でInstagramが開設され、学校での活動の様子など情報を見られるのは良いと思う。
- ・特色のある工業高校をつくるには、外部（若年層）の奇抜な意見を聞けるような機会を設け、柔軟な発想が必要であると思います。そして、なにより高い専門性をもった生徒を育成してもらいたい。
- ・挨拶運動はとても良い取組であり今後もこの活動は継続していただきたい。
- ・挨拶ができ人の話が傾聴できる。真面目で緊張しながらもコミュニケーションをとろうとする生徒を見て好感が持てました。
- ・全体的に優れた技術を持つ生徒が多く、就職率が高いことにも納得しました。
- ・子どもたちが進路決定に困らないように指導していただき感謝しています。
- ・普通科志向が高まる中、岐南工業高等学校に来れば、専門大学へ行く近道であり、専門技術が早く習得でき、技術者として地域に貢献できることをもっと周知していただきたい。

13 来年度に向けての改善方策案

- ・「時を守り、身をただし、元気にあいきつ」のもと、規律正しい生活習慣を確立する指導と、社会人としての倫理観を事あるごとに全職員で育成していく。
- ・遅刻指導、交通安全指導、情報モラル指導など、担任・学科、生徒指導で連携して取り組む。
- ・朝学習の内容と方法について、組織的に対応し効果的にできるよう検討し実施することにより、基礎学力の改善を図る。
- ・普段の学習内容の理解を向上させるためには、基礎的・基本的な知識と技能の習得を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力や判断力の育成が必要で、生徒に身に付けさせたい力を各教科において明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- ・ICT機器の活用したわかりやすい授業、学習の足跡の見えるか（学習履歴（スタディ・ログ）や、個別最適な指導ができるように教員のICT活用指導力向上を図る。
- ・本校の魅力や本校の就職・進学動向など、専門技術が早期に習得でき技術者として地域に貢献できることをもっと地域の方に情報発信をする。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐南工業高等学校

--	--

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>1 校訓「創意実践」のもと、知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人を育成します。</p> <p>2 全ての教育活動を通して「自立力」「共生力」「自己実現力」をバランス良く身に付けた人づくりを目指します。</p>						
2 スクール・ポリシー	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="443 434 788 501">『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</th> <th data-bbox="788 434 1129 501">『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</th> <th data-bbox="1129 434 1477 501">『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="443 501 788 972"> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動し責任を持ち、基礎・基本を身に付けた生徒 自己の役割を認識し、周囲と協力し、工業の発展のために積極的に自己の能力を生かそうとする生徒 規範意識・倫理観・創造力・実践力等、職業人として必要な資質を身に付け、工業技術を活用し社会に貢献する生徒 </td> <td data-bbox="788 501 1129 972"> <ul style="list-style-type: none"> 産業界との連携や課題研究等を通し主体的に学び続ける力、課題解決能力、職業人として必要な資質や能力を育成 ものづくりや資格取得、各種コンテストへの参加から、知識・技能を習得、社会人基礎力を身に付けた人材を育成 学校行事や部活動及び生徒会活動から心身の健全な発育、仲間意識、責任と規律を重んずる態度を育成 </td> <td data-bbox="1129 501 1477 972"> <ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を持ち、専門的な知識と高度な技術の修得に誠実に取り組み、地域産業の発展を支える人材になるという意欲のある生徒 多様な人々とのつながりを大切にし、他者と協働し目標に向け努力する生徒 高校生活に明確な目標を持ち、学習だけでなく資格取得や部活動にも意欲的に取り組むことができる生徒 </td> </tr> </tbody> </table>	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動し責任を持ち、基礎・基本を身に付けた生徒 自己の役割を認識し、周囲と協力し、工業の発展のために積極的に自己の能力を生かそうとする生徒 規範意識・倫理観・創造力・実践力等、職業人として必要な資質を身に付け、工業技術を活用し社会に貢献する生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 産業界との連携や課題研究等を通し主体的に学び続ける力、課題解決能力、職業人として必要な資質や能力を育成 ものづくりや資格取得、各種コンテストへの参加から、知識・技能を習得、社会人基礎力を身に付けた人材を育成 学校行事や部活動及び生徒会活動から心身の健全な発育、仲間意識、責任と規律を重んずる態度を育成 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を持ち、専門的な知識と高度な技術の修得に誠実に取り組み、地域産業の発展を支える人材になるという意欲のある生徒 多様な人々とのつながりを大切にし、他者と協働し目標に向け努力する生徒 高校生活に明確な目標を持ち、学習だけでなく資格取得や部活動にも意欲的に取り組むことができる生徒
『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)					
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動し責任を持ち、基礎・基本を身に付けた生徒 自己の役割を認識し、周囲と協力し、工業の発展のために積極的に自己の能力を生かそうとする生徒 規範意識・倫理観・創造力・実践力等、職業人として必要な資質を身に付け、工業技術を活用し社会に貢献する生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 産業界との連携や課題研究等を通し主体的に学び続ける力、課題解決能力、職業人として必要な資質や能力を育成 ものづくりや資格取得、各種コンテストへの参加から、知識・技能を習得、社会人基礎力を身に付けた人材を育成 学校行事や部活動及び生徒会活動から心身の健全な発育、仲間意識、責任と規律を重んずる態度を育成 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心を持ち、専門的な知識と高度な技術の修得に誠実に取り組み、地域産業の発展を支える人材になるという意欲のある生徒 多様な人々とのつながりを大切にし、他者と協働し目標に向け努力する生徒 高校生活に明確な目標を持ち、学習だけでなく資格取得や部活動にも意欲的に取り組むことができる生徒 					
3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導						
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>『生徒対象アンケート結果』 下記の(1)～(4)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」 92%(R2) → 93%(R3) → 91%(R4) (2)「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」 91%(R2) → 94%(R3) → 91%(R4) (3)「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」 80%(R2) → 89%(R3) → 85%(R1) (4)「本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」 81%(R2) → 86%(R3) → 82%(R4) ・上記は授業に関する生徒アンケートの3年間の推移である。全体的に8割以上の肯定的な回答が得られた。コロナ禍の影響により、授業にも多様な制限がかかり、平時と異なる授業展開になることも多い中、各教員が熱心に指導し、それを多くの生徒が好意的に受け止めている状況が読み取れる。</p> <p>『保護者対象アンケート結果』 下記の(1)～(4)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「職員は、学校経営や教育活動に熱心に取り組み、魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる」 87%(R2) → 89%(R3) → 82%(R4) (2)「教職員は授業を通して、学力が向上するように指導している」 84%(R2) → 86%(R3) → 79%(R4) (3)「学校はICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している」 79%(R2) → 84%(R3) → 69%(R4) (4)「授業や家庭学習への指導・支援を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」 71%(R2) → 86%(R3) → 73%(R4) ・上記は授業に関する保護者アンケートの3年間の推移である。全体的に数値が下がっているが、「わからない」の回答数が多くなっていることから、コロナ禍</p>						

	で保護者の方に学校に来校していただく機会が減ったことが要因として考えられる。保護者の方に本校の学習活動について理解を得られるよう改善が必要である。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人に主体的な学習を促し、将来に繋がる基礎学力の定着。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、工業部、進路指導部、生徒指導部が連携し推進する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 理数系科目の7限目授業を実施する。 (2) 基礎学力が不足している生徒は、学びなおし学習会で個別指導を行う。 (3) ICTを活用した授業の実践・研究する。 (4) 公開授業や職員研修会などにより、職員同士が学び合い、指導力の向上を図る。 (5) 全職員の共通理解のもと、規律ある授業で学力向上を推進する。 (6) 外部活力を活用したキャリア教育を充実させ、進路希望に応じた進路指導を行う。	① 生徒による授業評価の結果 ② 生徒・保護者のアンケート結果 ③ 基礎力テストの結果と分析 ④ 研究授業・公開授業の教員間評価や感想 ⑤ 研究授業・公開授業・職員研修の実施件数	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 朝学習を年間通して実施するとともに、学び直し学習会による個別指導を実施した。 (2) 生徒の実態を踏まえた上で、進路実現に適する学習教材を研究し、検討・選定を行った。 (3) 積極的なICT機器の活用に向け、環境整備とともに職員研修の充実に努めた。 (4) 「文化祭」などにおいて、本校の学習に関する教育活動を評価する機会を設定した。	① 生徒による授業評価の結果が向上したか。 ② 生徒を対象とするアンケートの結果が向上したか。 ③ 保護者を対象とするアンケートの結果が向上したか。 ④ 進路実現のための授業展開がされ、充実しているか。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D
12 成果課題	<p>○朝学習や学び直し学習会における個別指導を実施することにより、基礎学力の改善を図ることができた。普段の学習内容の理解を向上させるためには、基礎的・基本的な知識と技能の習得を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力や判断力の育成が必要で、生徒に身に付けさせたい力を各教科において明確にし、授業改善が必要。</p> <p>○工業高校の特色である実践的、体験的な学習活動を通し課題解決力の向上とともに、地域産業を支え社会に貢献しようとする主体的、協働的に取り組む姿勢を育成する教育に外部から高い評価を得た。</p> <p>▲GIGAスクール構想により、病気等で登校できない生徒に対して、授業動画の配信を実施し、授業補償や学び直しに役立てることができた。一方で、運用面において機器のトラブルや自宅学習の対応、ICT機器の活用方法に課題が残る。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案		
<p>(1) 学習評価を生かした授業改善 学習指導要領の改訂に伴い、今年度から学力の3要素である観点別評価が行われるようになった。3観点に沿った目標設定と指導と評価の計画が明確になった学習指導案を作成し、生徒に身に付けさせたい力に近づくよう授業改善を図り、教科ごとの単元の横のつながりや、他教科の学習内容のつながりを検討する必要がある。</p> <p>(2) 外部の教育力の活用 「楽しい」と実感できる学校であるとともに、好奇心や探究心が豊かな人材育成を図る必要があるが、社会で展開される技術革新が速く、専門的な知識や技術の学びを教員だきで担うことが困難となっている。企業や大学などと連携し、実情に合わせた学びを取り入れ、地域の求める人材育成をしていくことが必要である。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日 令和5年2月9日

- ・基礎学力をつけるための朝学習は効果的だと思います。今後も継続していただき基礎学力の定着をお願いしたい。
- ・教務部からの発信でInstagramが開設され、学校での活動の様子など情報を見ることができるようになった。若い世代のみならず、手軽に情報を見られるのは良いと思う。
- ・特色のある工業高校をつくるには、外部(若年層)の奇抜な意見を聞けるような機会を設け、柔軟な発想が必要であると思います。そして、なにより高い専門性をもった生徒を育成してもらいたい。

3 評価する領域・分野	◇生徒指導(含む教育相談)	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>『生徒対象アンケート結果』 下記の(1)～(4)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」 84%(R2) → 91%(R3) → 86%(R4) (2)「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身につけさせようとしている」 93%(R2) → 95%(R3) → 94%(R4) (3)「本校の生徒は、誰に対しても自然に挨拶が出来る」 87%(R2) → 91%(R3) → 91%(R4)</p> <p>・上記は生徒指導に関する生徒アンケートの3年間の推移である。コロナ禍で、心に不安や悩みを持つ生徒が増えており、本年度は特に教育相談の対応に力を入れてきたが、さらに強化する必要がある。</p> <p>『保護者対象アンケート結果』 下記の(1)～(3)の各問に「あてはまる」と回答した保護者の割合 (1)「学校では、個々の生徒の相談に丁寧に応じている」 85%(R2) → 86%(R3) → 76%(R4) (2)「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせる指導を行っている」 92%(R2) → 96%(R3) → 89%(R4)</p> <p>・上記は生徒指導に関する保護者アンケートの3年間の推移である。コロナ禍で、やはり「わからない」と回答する保護者が多く、保護者への情報提供が課題である。生徒アンケートと同じく、マナーや社会規範を身に付けさせる指導や身だしなみ指導に理解をいただいている。</p>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>具体的目標 ◇(1)時を守り (2)身をただし (3)元気に挨拶 (1)遅刻の減少→社会人基礎力の育成、交通事故の減少 (2)身だしなみ指導→社会人基礎力の育成、規範意識の向上 (3)元気に挨拶→コミュニケーション能力の向上と生徒理解 ◇教育相談の充実</p>	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部、教務部、工業部、進路指導部が連携し全教職員で推進する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)登校指導時の交通安全、遅刻、身だしなみの指導。 (2)教育相談(特別支援等)の研修を行う。 (3)ホームページや学校メール等を活用し、保護者に情報提供をする。	①昨年度の統計との比較と分析 ②教育相談的指導の改善 (いじめ・不登校等早期対応) ③指導生徒の改善(身だしなみ、遅刻、欠席)	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1)遅刻指導は「遅刻改善用紙」や「生活改善用紙」を用い、遅刻原因の分析と生活改善を促した。 (2)マナーアップウィークを設定し、授業中の規範意識と挨拶を高める指導を行った。 (3)頭髪指導については、外部機関、生徒会と協力し、時代に即した校則の見直しを行った。 (4)スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー事業を積極的に活用する。欠席者に対する対応方法を教育相談、保健室、図書館と連携をとり支援が必要な生徒の早期対応を行った。	①遅刻者数は減少したか。 ②落ち着いた雰囲気、朝のスタートができたか。 ③校則について外部の意見を取入れ検討できたか。 ④スクールカウンセラーとともに組織的に生徒をサポートできたか。	A(Ⓑ) C D (A) B C D (A) B C D (A) B C D
12 成果	○コロナ禍のため例年との単純な比較はできないが、遅刻者数の減少に向けて取り組んだ。遅刻は交通事故とも密接な関連があると考え、基本的な生活習慣と絡めて担任・学科、生徒指導で連携して取り組んだ。しかし、一部ではコロナ禍慣れして、欠席・遅刻などの基本的な生活習慣が乱れ、生活態度がルーズになる生徒が見られた。また、9・10・11月は異常	
		総合評価 A(Ⓑ) C D

・課題	<p>なほど遅刻数が増大したが、生徒指導・学科・担任が情報共有の上で「遅刻総数減少」に向けて呼びかけ指導をした成果もあり、例年遅刻数が増大する12・1月は例年と比べると非常に減少した。しかしながら、遅刻者数と交通事故数が連動しているのか、日頃から注意力に課題のある生徒を含め、交通事故が多く発生した。その中で、毎日の指導の積み重ねの重要性を痛感した。また、交通マナーについての苦情に対しは、警察署と連携するなどして、規範意識の向上に努めた。</p> <p>○頭髮については、本校へ求人活動で来校された企業の採用担当者から意見を取り入れ、本校の頭髮指導の在り方について、方針を定めることができた。 今後は、保護者の意見を取り入れ、その結果を踏まえてホームページに掲載し、周知を図りたいと考える。</p> <p>▲多くの先生による登校時の挨拶運動や、マナーアップキャンペーンによって、授業開始・終了時の挨拶の励行をした。コロナ禍になって「マスク着用」にて学校生活を送る機会が増え、本校の長所・特徴でもあった「元気な挨拶」が停滞気味であることが心配である。</p> <p>○教育相談は、SOSの出し方に関する教育の実施やケース会議の開催など、多くの先生方の協力により機能している。また、スクールカウンセラーと教育相談担当との連携により、心身に不安を抱える生徒の支援に大変大きな成果があった。欠席がちな生徒の再登校支援につながった好例もあった。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案	<p>(1) 交通事故件数の減少 命に関わる大切な指導であるため、交通事故への危険予知動画や自転車運転のマナーについての題材を積極的に取り入れ、入学当初よりLHR等で実施していきたい。また、Webや動画に情報モラル講話を実施する予定があるので、題材を充実し、検証していく必要がある。</p> <p>(2) 長引く新型コロナウイルス感染症対策による、欠席・遅刻に対する意識の低下への対応 マナーアップウィーク等の実施、5分前着席の徹底により、遅刻や身だしなみについての規範意識を高め、規律正しい高校生活の定着を図る。</p> <p>(3) 教育相談の充実 いじめや不登校等の早期発見・早期対応を心がけ、事後の対応についても、スクールカウンセラーやSSW等を活用し、教育相談の充実や教職員間の連携を密にして情報共有に努める。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日 令和5年2月9日

・挨拶運動はとても良い取組であると思います。社会に出ても朝の挨拶で始まり、帰りの挨拶で終わると言う行為が日常的にできる社会が適切であると思います。今後もこの活動は継続していただきたい。

・挨拶で始まり、挨拶で終わる、人の話が傾聴できる。主体的に活動させることでマナーや振る舞いの切り替えができないことにならないよう指導をしていただきたい。真面目で緊張しながらもコミュニケーションをとろうとする生徒を見て好感が持てました。

3 評価する領域・分野	◇進路指導
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>『生徒対象アンケート結果』 下記の(1)～(3)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」 90%(R2) → 94%(R3) → 89%(R4) (2)「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」 87%(R2) → 94%(R3) → 89%(R4) (3)「本校では、マナーやコミュニケーション能力を高め、産業人としての資質を養う指導がなされている」 83%(R2) → 91%(R3) → 87%(R4)</p> <p>・上記は、進路に関する生徒アンケートの3年間の推移である。アンケート結果では概ね8割を超える肯定的な回答が得られているが、コロナ禍で進路に対する不安を抱えている生徒は多く、より一層、キャリア教育の充実が求められている。</p> <p>『保護者対象アンケート結果』 下記の(1)～(3)の各問に「あてはまる」と回答した保護者の割合 (1)「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設</p>

	けている」 78%(R2) → 81%(R3) → 79%(R4) (2)「学校は、生徒の進路に沿った適切なアドバイスをしてくれる」 76%(R2) → 82%(R3) → 79%(R4) (3)「学校では、マナーやコミュニケーション能力を高め、産業人としての資質を養う指導がなされている」 87%(R2) → 90%(R3) → 89%(R4) ・上記は、進路に関する保護者アンケートの3年間の推移である。コロナ禍のため、進路に関するガイダンスや企業訪問の中止が回答に大きく影響している。「わからない」という回答が多くあることから、保護者への進路情報提供の在り方について課題が明確となった。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・社会人基礎力を身につけた地域社会を担う産業人の育成	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部、教務部、工業部、生徒指導部が連携し全教職員で推進する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 外部活力の積極的な活用 (2) 1年生から進路目標を明確にし、各学年の発達段階に応じた内容を検討してガイダンスの実施 (3) 教務と連携し、協働学習を意識した授業の推進	①基礎学力診断テストの結果 ②全職員による朝学習の取り組み達成度 ③学び直し学習のために、Webを介した学習教材を導入し実施 ④昨年度の統計との検証	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 各学年において、重点目標を定め、目標に向けてガイダンス等を実施した。 (2) インターンシップ(2年生全員3日間)の実施 (3) 外部の教育力活用による研修や企業見学の実施 (4) 大学などの進学者へ学力向上に向けた取り組みの実施	①朝学習の到達度 ②基礎力テストの結果 ③各学年重点目標の達成度 ④課題の進捗状況、達成度	A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 成果・課題	○就職希望者の一般企業の内定率は、今年度も100%を達成することができた。難易度の高い公務員に合格できた。 ○昨年度の反省を生かし、コロナ禍ではあったが工夫を重ね、インターンシップ、企業見学卒業生と語る会、コミュニケーション向上研修、各種講習会等を実施し、進路支援の継続的な取組ができた。 ▲大学などの進学に対応したカリキュラムの編成や、Webを介した学習教材の導入などを行っているが、学力の向上が課題となっている。推薦入学を希望する生徒には、基礎力テスト、各種検査の結果と合わせて個に応じた適切な指導を行いたい。	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
13 来年度に向けての改善方策案	(1) 早期から確実に進路実現をするために、より一層、生徒一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通すことができ、振り返ることもできる働きかけを研究する。 (2) 工業科職員だけでなく、普通科の教員も就職指導ができるよう、企業研究などを通してキャリア教育に関する職員研修の充実を図る。 (3) 進学者に対して、進学先の学校が求める人物像を確実に身につけさせ、入試条件に合致できる学力の指導と実績が残せる活動の指導を合わせた進路指導の在り方を研究する。	

II 学校関係者評価

実施年月日 令和5年2月9日

- ・全体的に優れた技術を持つ生徒が多く、就職率が高いことにも納得しました。特に建築分野での「BIM」など最新のことを取り入れて学習するなど社会で即戦力になる人材育成がなされていることに感謝します。
- ・コロナ禍で、事業所の訪問やインターンシップ、オープンキャンパスなどに参加することが困難であったにもかかわらず、工夫され子どもたちが進路決定に困らないように指導していただき感謝しています。
- ・普通科志向が高まる中、岐南工業高等学校に来れば、専門大学へ行く近道であり、専門技術が早く習得でき、技術者として地域に貢献できることをもっと周知していただきたい。